1年間の台湾長期留学を終えて

2018年度長期留学最終報告書 台湾 文藻外語大学交換留学 高知県立大学 文化学部文化学科 173126 山本杏実

1. 台湾に留学しようと思ったきっかけ

台湾で過ごしたこの1年間は私の今までの生活の中で一番密度が濃く、充実した時間でした。 初めての海外での長期の生活は言葉の壁や文化の違いなどでわからないことや戸惑いも多く大変 なことも多かったですが、その壁を乗り越えて成長していることを自分自身で感じることができ ました。また、留学前と後を比べると1年間勉強に励み、海外で暮らしたことで自分に少し自信 を持つことができました。

私がこの台湾に長期留学しようと思ったきっかけ2つあります。1つ目は大学で初めて英語以外の外国語である中国語を授業で学び面白いと思ったことです。2つ目は大学生活でも台湾人の友達ができて台湾に興味を持ったからです。興味を持ち始めた時期に大学で台湾の短期研修が行われることを知り、参加した研修で人が優しい、食べ物がおいしいといった台湾の魅力に触れて、次の年の長期留学への応募の決意を固めました。また、私は実家から大学へ通っていたため一度実家を出て生活をしてみたいと考えていたためこの長期留学は私にとってとてもいい機会でした。

2. 台湾での生活

台湾での生活は4人1部屋の寮で暮らしました。私のルームメイトは台湾人が2人とポーランド人が1人でした。簡単な中国語しか話せなかったので最初の半年は自分からルームメイトに話すことができず、またルームメイトも私の話しかけても聞き取ってもらえないということから会話があまりありませんでした。半年ほどで簡単な会話が話せるようになってきたため、自分から積極的にルームメイトに話しかけていると向こうも自然に会話してくれるようなり、一緒にご飯を食べに行ったり、買い物を一緒に行ったりできるほど仲良くなることができました。ルームメイトはこんなに仲良くなった日本人は初めてだと言ってくれてとてもうれしかったです。そのほかにも授業で知り合った子や前に高知県立大学で留学していた子がよく週末遊びに連れて行ってくれました。文藻では日本語が話せる子が多くいたので台湾に来た当初は日本語で会話していましたが、だんだん自分も中国語で会話できるようになっていくのがうれしかったです。

SOSA という留学生の生活をサポートしてくれる組織があり、そこで行われるイベントにも参加し、「台湾原住民文化園區」へ行きました。室内で行われた様々な原住民の紹介も兼ねたダンスや歌や楽器演奏では木で作られた楽器が多くありとても面白かったです。瑠璃珠のネックレスを作ったり、タトゥーシールで入れ墨体験をしたりしました。ダンスを踊っていた原住民の人が顔にタトゥーシールを貼っていたので、彼らは本当の原住民なのか気になったので台湾人の子に聞いてみると、ここにいるのはみんな本当の原住民の方で、今は入れ墨ではなくシールの人がほと

んどだと言っていました。台湾独自の原住民という文化に触れることができた貴重な体験ができました。

3. 華語中心

華語中心という大学の中にある中国語を学ぶ場所があり、そこで同じように各国から文藻外語



大学へ留学にきた留学生たちと一緒に中国語を学びました。華語中心では授業開始日前のテストによってレベル別にクラスが振り分けられて、わたしは4つあるクラスのうち、下から2つ目のクラスで勉強することになりました。クラスメイトは日本人と韓国人とフランス人で構成される14人で、授業は基本的に中国語で進められて、たまに英語が使われました。先生は早口で話すため、最初は先生の言っていることを理解するのに必死でした。毎日机に向かってその日の授業の復習や予習をして、単語をたくさん覚えてとにかく読む練習をしました。その甲斐もあり、最初は理解することでいっぱいいっぱいだった授業も楽しんで臨むことができました。

授業では中国語を使って色々な国の話が聞けるので楽しかったです。授業後にクラスメイトとご飯を食べに行くときは授業で習った単語や文法を使った会話の練習ができました。クラスメイト 14人のうち、3人が半年間の留学であるため親睦も兼ねて思い出づくりにクラスメイトと一緒に色んな場所へ遊びに出かけました。澄清私達のクラスを教えてくれている先生たちと晩御飯を食べに行ったり、ボーリングや遊園地へ行ったり、クリスマスには授業で中国語のクリスマスソングを歌ってケーキを食べました。他のクラスは日本人が多いですが私達のクラスはフランス人が多く、中国語を話す機会が自然に多くなるので勉強にもなりました。

冬休みには華語中心で行われた個人授業を友人と申し込み、さらなるレベルアップを目指しました。その結果、冬休み明けの後期には一番上のクラスへ入ることができました。そのクラスでは日本人、ドイツ人、ベルギー人からなる5人のクラスで学びました。少人数のため、話す機会が多く特に会話の勉強を中心に学んでいきました。ほかのクラスメイトは自分よりも聞き取りができて語彙も豊富で彼らに追いつくためにより一層努力することができました。明らかに自分と

レベルの違うクラスメイトを前にして、落ち込むこともありましが根性でついていくことができました。

4. 生活環境の違いによる体の不調

12月ごろから肌荒れが目立ち始め、2月には顔にたくさんのニキビのようなものができて台湾人の友人に病院に連れて行ってもらうと、台湾人によく多い皮膚病だといわれました。原因は



さまざまで、紫外線、水、空気、食べ物、ストレスなどだそうです。8週間刺激の強いもの、アルコール、脂っこいもの、熱いもの、冷たいものなどの食事制限をされました。その後時間をかけるにつれて肌の調子は良くなりましたが、食べ物に気を付けるようになりました。日本に帰るまでに合計8回ほど病院へ行きました。もともとあまり肌荒れするほうではなかったので台湾で肌荒れを起こしてから荒れやすくなったのは少しショックでした。一番面倒だったのは保険のことです。文藻の保険と日本で入った海外保険2つがありましたが、前期分は文藻の保険、後期分は日本の保険を使いました。文藻の保険に入ったときは気づかなかったのですが、こちらに入る必要がなかったのだとこのとき気が付きました。最初から十分確認する必要がありました。

5. 台東での民宿生活

6月に文藻外語大学での留学生活を終えた後、もう少し台湾での生活を楽しみたかったので社会勉強もかねて、台東へ20日ほど民宿で住み込みのバイトをすることにしました。海と山に囲まれた環境が高知と少し似ているところから、場所は台東を選びました。民宿先のオーナー夫婦も日本のことが好きであったため日本人の私を受け入れてくれました。そこではお客さんの使った部屋の掃除や朝ごはんの準備など朝から昼過ぎまで仕事をして、そのあとは同じバイトの子たちやオーナー家族と一緒に海へ遊びに行くなどして、ゆっくりと時間を過ごすことができました。

しかし、文藻での生活とは違い全く日本語が使えない環境や一家族として生活する中でみんなが話している内容がわからないことが多く、わかったとしてもどう答えたらいいかわからないことが多く、辛くて何回か泣いてしまうことがありました。文藻での生活で日本が恋しいことはあっても帰りたいと思うことはありませんでしたが、精神的に辛くて台東ではたまに日本に帰りたいと思う時がありました。そのせいで民宿の人たちに心配をかけてしまいましたが、「言語がわか

らないのは君のせいじゃないから責任を感じる必要なんてないよ」「わからないことは何でも聞けばいいんだから」と励ましてくれました。民宿のみんなは私が全部会話の内容を理解できていると思っており、言葉の壁に悩んでいるとは思ってなかったようでした。このことから、言わなければ伝わらないから自分でしっかり意思表示をすべきたと学びました。最後に台東を離れるとき、



「またいつでも帰ってきてね」と送り出してくれました。優しい人たちや美しい自然に囲まれて 過ごせたこの20日間は私にとって宝物のような思い出です。この民宿で生活できて本当によか ったです。

6. まとめ

台湾で暮らして中国語を学んでみたいと思い始まった約1年間の留学生活はあっという間に終わってしまいました。この1年間での変化として、台湾での長期留学を目標として掲げてから実際にやりとげたことにより自分に少し自信がついたということです。英語が苦手で外国語学習に苦手意識を持っていた自分が、1年間継続して中国語を学ぶことができたことに関して、自分もやればできると気づくことができました。また、1年間実家を離れたことによって家族のありがたみを再確認することができました。父や母にはたくさん心配をかけた分、日頃の感謝を伝えていきたいと思います。もちろん、中国語の勉強は継続して行っていきたいです。

最後にこの1年間たくさんの方々にお世話になりました。その感謝を述べてこの報告書をしめ させていただきたいと思います。本当にありがとうございました。